



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二二三号

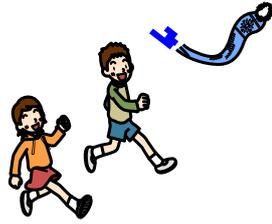
2021.2.22
責任者
市川 麻美

「令和二年度」も残すはひと月…

三年生は、二月十五日から三日間で公立高校受検を終え、卒業に向けて中学校生活の総まとめをする時。一、二年生は二月二十四日から今年度最後の定期テストに向けてラストスパート、そしてこの一年間を振り返る時。とても大事な時期です。最後のひと月をどう過ごすかで、来年度の学校生活に少なからず影響があることと思います。自分このこれまでをよく見詰め、これからどうしたらよりよい学校生活となるか、じっくり考え直す時間を持つてみてください。



さて、今日四日、史上最速の『春一番』となりました。だんだん春が近づいてきますが、まだ寒い日もあることでしょう。よく、風邪を引いたりすると、お医者さんから「味噌汁を飲みなさい」と言われることがあります。味噌汁は栄養があ



るからです。塩分過多にさえ気をつければ、具だくさんの汁物である鍋物も、健康的で比較的簡単にできることとおきのメニューです。北海道医療大の掘田准教授は「鍋は究極の薬膳」と指摘されています。特に体力の落ちる冬場にはもってこいです。家族で鍋を囲めば自然と笑顔になり、心身ともに温まるものです。学校保健委員会のテーマでもあった「免疫力を落とさない」ためにもとても良いものではないでしょうか。まだ気をつけたいインフルエンザやこの先もついて来るであろう感染症予防対策にもつながります。何事も健康であってこそ乗り切れるというものです。また、常に冷静に物事と向き合いながら、他人への思いやりや優しさを忘れずにいたいものです。毎回お願いしてばかりですが、これからも



地道に感染症予防対策をしっかりと行いながら毎日明るく楽しい学校生活を送れるように、教師も生徒もみんな、少しづつ譲り合って思い合って過ごしたいと思えます。よろしくお願ひします。

「命」誕生のよみかた

一月二十五日(月)五校時に、バースセンス研究所の大葉ナナコさんをお招きし、二年生対象の性教育講演会を実施しました。講師のお話とともに映画「うまれる」の一場面を鑑賞し、命が誕生する場面を真剣に受け止め、命について改めて考えることができました。

二年

自分が想像しているよりも、外国では生まれてくる多くの赤ちゃんが亡くなってしまふということに驚きました。人が生まれるのに「会えないかもしれない」などと思いが、生む場所に行くのはとてもつらいことだと思えます。そんな中でもその場所に行くことができるということは「強いなあ」と思いました。また、早くに赤ちゃんを授かる人もいれば、今回見せていただいたビデオのように授かりたくてもなかなか

か授かれないということがあつたことがあつたと思ひました。いろいろな面で、人の命を軽く見てはいけなしいし、軽く見てしまふ人がいない社会になればいいと思ひました。



二年

保健の授業では学べない知識や命の大切さがわかりました。ビデオにあつたような実際のお産は初めて見たので、あのようなら思いをして自分を産んでくれた母に改めて感謝の気持ちを持ちました。命の尊さを感じ、話に引き込まれ、あつという間に時間が過ぎた講演会でした。

二年

命が生まれるということは、本当にすごいことであること。そして、私たちが今、生きているということが「奇跡」だということを改めて知ることができました。今回の講演会の内容をもとに、今後、なにか辛いことがあつても、自分のことを大切に考えながら生活していけたらいいなあと思ひました。また、講師の先生がおっしゃっていたように、相手のこともしっかりと考え、行動できるような大人になれたらいいなあと思ひました。

中学校生活や 将来について

三年生から始まった校長面接もようやく一年生の順番になりました。特に一年生にとっては初めてのことで、みんなかなり緊張しているようです。事前に面接シートでこの一年間を振り返ったり、将来のことについて考えてもらいました。



一年

今は、得意なことや特別好きだと言えることがありません。だから一つ夢中になれることがほしいです。そして、その夢中になれることをずっと続けたいです。スポーツ、音楽など何でもいいと思っています。将来は、自分の幸せはもちろん、自分の大切な人の幸せと一緒に喜んであげられるような人になりたいなあと思っています。がんばりたいです。

一年

将来については、あまり決めていません。将来のために今、自分が頑張っていることは、一日一日を大切に、自分が分からない問題を先生に聞いて

たり、勉強で苦戦するところを何度も解くようにしています。また、授業中に分からない問題を、その場で先生に相談するようにしています。将来に向けて、さらに頑張りたいです。

一年

中学校は、試験が小学校のようにならずにはなく、まとめて定期試験としてあるので、その試験勉強が大変です。小学校以上に将来につながるの頑張らなければいけないと思います。将来については、まだ夢がないので、中学校を卒業するまでに夢を見つけて、その夢に向かって努力していきたいです。

一年

中学生になって、勉強が難しくなってきた。最初は、最初は、最初も勉強のやる気が出ず、あまり力が入りませんでした。でも、日がたつにつれ、将来の夢ができ、勉強にも積極的に取り組むようになりました。そして、勉強がだんだん楽しく感じるようになりました。将来の夢を実現し、多くの人の心のくもりを取り除きたいと思っています。

日頃の備え

二月十一日(土)午後十一時八分ごろ、福島県沖を震源とする大き



な地震がありました。県西地域でも大きな揺れを感じましたが、幸いにも真鶴中学校に大きな被害はありませんでした。ただ、福島県や宮城県など報道されているように大きな被害が出てしまっています。心からお見舞い申し上げます。東北大震災からもうすぐ十年を迎えるところですが、災害はいつ、どこで起こるか予想が付きません。今回の地震被害も他人事と思わず、日頃から災害時の状況をイメージし備えておきたいものです。

十七日(水)の生徒下校後に総合警備保障より講師をお招きして、職員対象校内救急法研修会を実施しました。講師から、傷病者を発見したときの対処法や AED (Automated External Defibrillator) 自動体外式除細動器とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動)になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器)の使い方の説明を受けた後、人形を傷病者に見立て、心臓マッサージや AED を使う訓練を行いました。毎年実施していることもあり、どの職員も戸惑うことなく実施できました。使うことができないのが一番良いのですが、常に万が一

春を感じます

に備えておく必要があります。必要時には躊躇することなく救急措置ができるよう努めてまいります。なお、真鶴中学校の AED は、一階保健室前の廊下に設置されています。



暦のうえでは二月三日(水)に二十四節気の立春で春を迎え、十八日(木)の雨水を過ぎ、いよいよ草木が芽生えるころとなりました。「雨水」陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり、雪が雨に変わる。「国立天文台(こよみ用語解説)」。暦のうえだけでなく、確実に季節は進んでいます。



真鶴中学校の敷地の中でも、「春の使者」といわれる露の臺(ふきのとう)が芽吹き、野蒜(のびる)がすくすくと生長しています。季節の変化を感じます。毎日忙しく過ごしている中では、なかなか感じにくいことですが、心を落ち着け、ちよつと意識を変え、いろいろな変化を感じることができます。ぜひ春を探してみよう。